



最新鋭のシャーリングマシンを充実

あらゆる分野へ 精度の高い加工鋼板を迅速提供

株式会社 大日商会

事業内容と沿革

鋼板加工一筋に65年、 時代に応えて業容を拡大

昭和29年5月1日に創業。建築物の屋根や壁に使用する波板鋼板の販売を開始した。その後、ポリエチレン製波板やテントなどの台頭に伴い、波板鋼板の需要が減少。これに対応するため、製鉄会社で製造される鋼帯（コイル）の加工に着手し、大手製鉄会社の指定コイルセンターとして業容を拡大してきた。現在は鉄鋼製品の加工販売を主事業に、自動車部品や事務機器、建材向けなど多くの分野に加工鋼板を提供している。

本社を併設する門真工場に加え平塚工場（神奈川県）、静岡工場（静岡県）と3つの製造拠点をもち、販路については商社と連携を密にして顧客の細かな要望を吸い上げる体制を構築している。

門真工場と平塚工場では、主に大手事務用品メーカーに納める鋼製家具向けの冷延鋼板を加工。静岡工場では自動車部品メーカーに納める特殊鋼のほか、大手住宅メーカー向けに表面処理鋼板の販売をメインに手がけている。売上げは全体の約60%が自動車分野向け、15%が鋼製家具向け、10%が建材向けという比率で構成されている。令和となった5月1日に創業65周年を迎えた。

強み

充実した設備と人の手 双方のメリット生かす

「大ロット・小ロット・短納期」対応を確実にこなすことが強み。これを実現するのが品質と生産効率向上への継続的な取り組みである。

経済産業省の「ものづくり・商業・サービス新展開支援補助金」について、平成27年度に門真工場が、平成29年度には平塚工場がそれぞれ採択された。これを活用し、最新鋭のシャーリングマシンを導入。これまで鋼板の導入側に2人、排出側にも2人の計4人の人手を必要としていた作業が、1人でこなせるようになった。加工精度の向上はもとより、生産効率も大幅にアップさせた。

その他、コイル表面のキズ検査機も導入し、不具合の早期発見を実現。また段取り時間の短縮に常に取り組み、これに関わる設備も積極的に導入するなど、設備投資に余念がない。工場内には最新鋭のコンピューター制御を備えたレベラーやスリッター、シャーリングなどが整然と並んでおり、同社の強みは充実した設備といったよいだろう。中田晴己代表取締役専務は「顧客の要求は以前にも増して厳しくなっている。従業員の熟練の技と最新鋭設備の両方のメリットを生かし、顧客満足度を高めている」と強調する。



レベラーのライン



スリッターのライン



キズなどの不具合がないか厳しく検査



「藤袴」を栽培

企画・提案

試作・受託

短納期対応

多品種少量

量産対応

コスト相談

オンラインワン

カドマイスターの取り組み

地元とのつながりを 生かし人材確保

「カドマイスターの認定を受けたことが地元での知名度向上につながっている。今後はこれを活用し、さらなる知名度向上に努めたい」と中田専務は語る。

同社には毎年、地元の高校生が会社見学に訪れるという。中堅・中小企業における人材確保が厳しいなか、定期的に新入社員を採用できているのは、地元とのつながりの強さの現れだろう。入社後の人材育成については独自の「安全作業手順書」をもとに、OJTで計画的に教育。今後は外国人労働者の雇用も視野に入れた労働力確保を検討していく考えだ。

環境改善活動にも 力を入れて取り組む

本業の他に興味深い取り組みがKES（京都・環境マネジメントシステム・スタンダード）の活動である。環境改善活動を推進する取り組みで、環境省が準絶滅危惧種に指定する植物「ふじばかま藤袴」を工場の敷地内で栽培している。

また、加工鋼板の出荷時に用いる梱包用木材の再利用にも力を入れる。納入後、取引先から回収し、修復・調整を行って再び使用。廃棄物の削減に努めている。

時代の変化への対応と 環境負荷低減を重視した経営



代表取締役社長
中田 十紀夫さん

創業以来65年、鋼板加工一筋に技術を磨いてきました。時代の変化に応じて常に顧客対応力を高めています。このような取り組みにより、精度の高い加工鋼板を迅速に提供できるのが当社の自慢です。また設備能力の向上にも力を入れており、レベラーやスリッター、シャーリングなど最新鋭設備を充実させているのも強みとなっています。一方、企業として環境負荷低減の活動も重視しており、KESの認証を取得。絶滅が危惧される植物の栽培を行ったり、部材の再利用や工場内の廃棄物削減に努めています。

主な事業内容

最新鋭設備による高精度で多様な加工鋼板の提供

主な取引先（納入先）

自動車部品メーカー、事務用品メーカーなど

【住 所】〒571-0015 大阪府門真市三ツ島5-25-12
【TEL】072-883-1111
【FAX】072-884-7598
【創業】昭和29年5月1日【設立】昭和33年7月
【資本金】5,000万円 【従業員】143名

今後の展開

3拠点を軸に国内での 販路拡大と技術向上を進める

今後の展開として重きを置くのは国内における販路の拡大である。門真工場、平塚工場、静岡工場それぞれを軸に関西圏、関東圏、東海圏での新規顧客の開拓に力を入れる。鉄はあらゆる分野で使用されており、新たな需要を喚起できる余地はまだ十分にあると見ている。

これを進めるためには、商社と連携を強めた細やかな営業活動で認知度を高めることや設備能力のさらなる向上と人材の確保が不可欠であると考えている。

一方、顧客ニーズの多様化に応じた製品面での取り組みも進めていく方針。カラー鋼板やハイカーボン、ステンレスなど加工に高度な技術を要する鋼板の取扱量を増やす見込み。顧客満足度を高める提案力と、厳しい検査体制による高精度鋼板の提供が同社の強み。これからも設備と人の能力向上、製品・サービスの環境負荷低減を理念に強みを拡大していく。

<http://dainichishokai.co.jp/>

